

景 気 動 向 調 査

(第 154 回)

2009 年 4 月 ~ 6 月 期 実 績

2009 年 7 月 ~ 9 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

記

- 1．実施時期 2009年6月下旬～2009年7月上旬
- 2．調査対象期間 2009年4月～6月期実績
2009年7月～9月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業 400社
- 5．回答数 210通（回答率 52.50 %）
<内訳> 製造業 72社 建設業 48社 卸・小売業 90社
- 6．調査の主要項目 (1) 業況について
(2) 設備投資の動向について
(3) 資金繰りの状況について
(4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

（注）「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

～ 景況感に改善の動き ～

2009年4～6月期の岩手県内企業の景況感DIは、全体で84.7と前期92.7より8.0ポイントほど上向きとなった。

7期連続して下向き「景況感DIワーストランキング」の記録を更新して新たに1位となった前期から、景況感に改善の動きがみられた。米国発の金融不安を契機に世界経済と連動した国内景況の落込みにも、下げ止まりの状況がみられることから、今後の動向を注視したい。

項目別に前回調査時（2009年1～3月期実績）と比較してみると、今期は景況感、売上高、仕入高、在庫、収益、資金繰り等で上向いており、前期までと反対の傾向がみられ、改善へと動く兆しが顕著に表れている。製造業はほとんどの項目で上向いており、建設業も上向く項目が多い状況にある。卸・小売業は景況感DIが90台の水準だが、項目別では上向いている。来期の見通しでは、建設業でバラツキがみられるものの概ね上向く状況にあり、今後の動向が注目される。

国内経済をみると、大きく落ち込んでいた輸出、鉱工業生産が回復基調の動きに変化してきており、新車、家電販売ほか個人消費にも上向きの兆しがみられる。国の経済対策等から公共投資は底堅い動きで推移している。しかし、収益の減少から企業の景況感は厳しく、設備投資は大幅に減少し、雇用情勢も依然として悪化しており、住宅建設も引き続き低調に推移している。国内企業物価、消費者物価は緩やかに下落しており、株価は9千円台での上下が続いている。総体として景気動向は厳しい状況にあるものの持ち直しの動きがみられる。

一方、最近の岩手県内経済をみると、鉱工業生産は在庫調整の進捗などから一部に持ち直しの動きも見られるが、全体としては減産の動きが継続している。6月に入り公共投資は上向く動きがみられたが、設備投資、住宅建設は依然として落ち込んでいる。雇用情勢は低い水準での推移が続いていることから、個人消費も低調な動きとなっている。このように岩手県内景気は、低迷状態が続いており、厳しい状況にある。

< 参考 >

岩手県内企業「景況感DI」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感DI
1	第153回	09年1～3月	92.7
2	第152回	08年10～12月	91.3
3	第124回	01年10～12月	91.2
4	第109回	98年1～3月	90.6
5	第111回	98年7～9月	90.0

(1971(昭和46)年以降)

1. 県内景況感について
全体のD Iは、今回調査では8期振りに上向きとなり、前期比8.0ポイント上昇して84.7となっている。各業種別のD Iをみると、製造業は4.9ポイント、建設業は16.7ポイント、卸・小売業が5.6ポイント上昇して、全業種で上向きとなっている。
7~9月期見通しでは、製造業が18.2ポイント、建設業が6.3ポイント、卸・小売業が18.4ポイント上向き見通しとなっている。
2. 業況について
 - (1) 売上高または出荷高
D Iは、全体では2.3ポイント上向きとなっている。業種別では、製造業が7.7ポイント、卸・小売業も0.5ポイント上向いているが、建設業が2.0ポイント下向いている。
 - (2) 生産高または仕入高
製造業の生産高は下向いており、5期連続してマイナスの水準となっている。卸・小売業の仕入高は5期振りに上向き、7.5ポイント上昇している。
 - (3) 在庫
製造業の製品在庫、卸・小売業の商品在庫とも上向きとなっており、特に卸・小売業の上昇幅が大きい。在庫水準では、「適正」とする比率が、製造業、卸・小売業とも上昇している。
 - (4) 収益
全業種で上向いており、特に製造業の上昇幅が大きい。7~9月の見通しでも、全業種で上向いており、特に卸・小売業の上昇幅が大きい。
 - (5) 販売価格・仕入価格
D Iは、販売価格、仕入価格とも上向いている。7~9月の見通しでも上向いており、仕入価格はマイナスからプラスの水準となっている。
3. 設備投資の動向について
全体で見ると設備投資を「実施した」企業は18.7%とほぼ横ばいとなっており、業種別では、製造業が横ばいで、卸・小売業が下向き、建設業が上向いている。
なお、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が2位となっている。
4. 資金繰り状況について
建設業が横ばいで、製造業と卸・小売業が上向いている。特に卸・小売業の上昇幅が大きい。来期の見通しについては、建設業だけが下向き予想となっている。
5. 経営上の問題点について
上位の項目に変わりはないが、「販売価格安」が比率を高めている。製造業では「受注不振」が4期連続でトップとなっており、建設業、卸・小売業では今期も「過当競争」の比率が高くなっている。

1. 県内景況感について

～ 8期振りに上向く ～

〔4～6月期の実績〕 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が1.4%（前期0.5%）、「悪い」が86.1%（同93.2%）で、DIは84.7（同 92.7）と、8.0ポイント上向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が84.5（同 89.4）、建設業が72.9（同 89.6）、卸・小売業が91.1（同 96.7）となっている。卸・小売業が90台の低い水準となっているが、全業種で上向いている。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が6.3%、「悪くなる」が75.3%であることから、DIは69.0となり、4～6月期実績と比較すると上向く見通しとなっている。

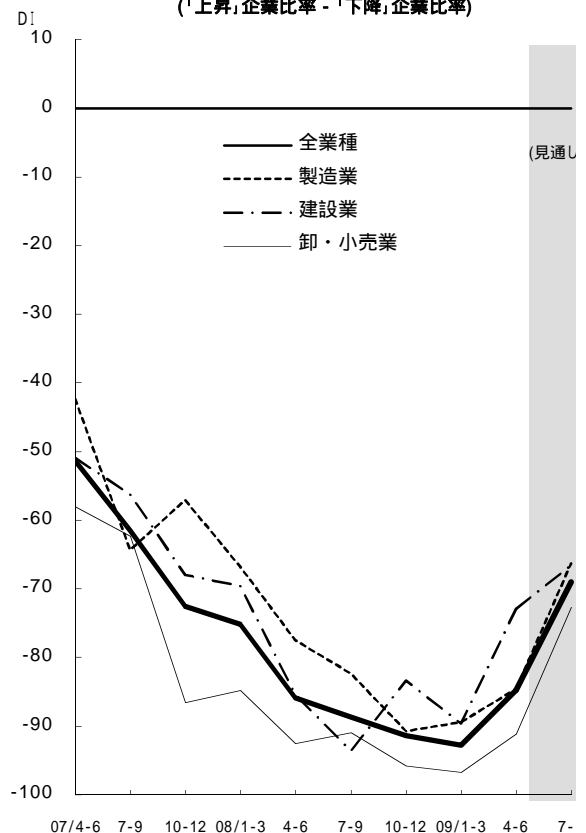
業種別にみると、製造業が66.3、建設業が66.6、卸・小売業が72.7となっており、全業種が上向く見通しの回答結果だった。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	4～6月 (実績)	0.0	1.4	12.5	34.9	51.2	-84.7
	7～9月 (見通し)	0.5	5.8	18.4	39.1	36.2	-69.0
(製造業)	4～6月 (実績)	0.0	1.4	12.7	38.0	47.9	-84.5
	7～9月 (見通し)	1.4	4.2	22.5	29.6	42.3	-66.3
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	2.1	22.9	22.9	52.1	-72.9
	7～9月 (見通し)	0.0	4.2	25.0	35.4	35.4	-66.6
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	0.0	1.1	6.7	38.9	53.3	-91.1
	7～9月 (見通し)	0.0	8.0	11.3	48.9	31.8	-72.7

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率・「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 5期振りに上向く ～

〔4～6月期の実績〕 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が15.3%(前期15.5%)、「減少」が69.4%(同71.9%)となり、DIは54.1(同56.4)と2.3ポイント上昇し5期振りに上向きとなっている。

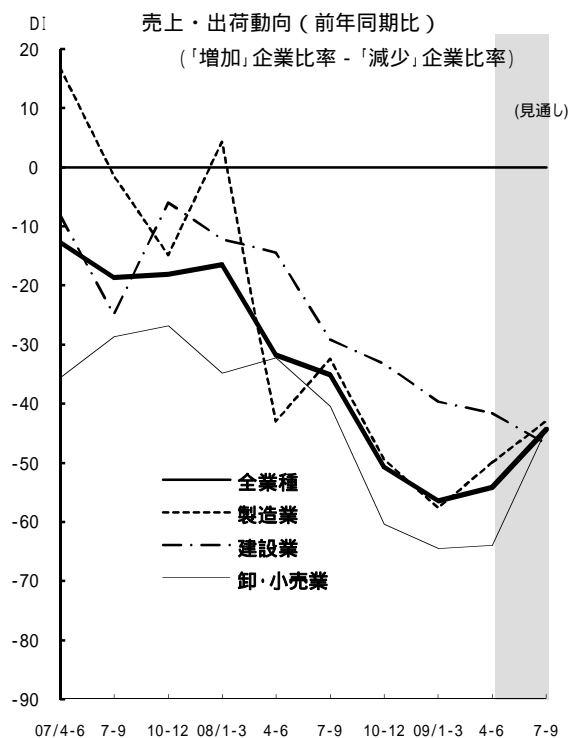
業種別にDIをみると、製造業49.9(前期57.6)、建設業41.6(同39.6)、卸・小売業64.0(同64.5)となっており、建設業で僅かに下向いているが、製造業、卸・小売業は上向いている。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が16.1%、「減少」が60.4%であることからDIは44.3で、4～6月期実績と比較して9.8ポイント上向く見通しとなっている。

業種別にDIをみると、製造業で42.9、建設業で46.8、卸・小売業で44.4となっており、4～6月期実績と比較して建設業だけ下向く見通しとなっており、卸・小売業は19.6ポイント大きく上昇している。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	5.3	10.0	15.3	35.4	34.0	-54.1
	7～9月 (見通し)	2.9	13.2	23.5	42.4	18.0	-44.3
(製造業)	4～6月 (実績)	4.2	13.9	13.9	36.1	31.9	-49.9
	7～9月 (見通し)	1.4	12.9	28.5	38.6	18.6	-42.9
(建設業)	4～6月 (実績)	6.3	12.5	20.8	25.0	35.4	-41.6
	7～9月 (見通し)	2.1	12.8	23.4	36.2	25.5	-46.8
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	5.6	5.6	13.6	40.4	34.8	-64.0
	7～9月 (見通し)	4.5	13.6	19.4	48.9	13.6	-44.4



(2) 生産高または仕入高

～ 卸・小売業の仕入高5期振り上向く ～

[4～6月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が12.7%（前期15.1%）、「減少」が64.8%（同65.2%）で、DIは 52.1（同 50.1）と2.0ポイント下向いている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は11.4%（前期8.7%）、「減少」が71.3%（同76.1%）で、DIは 59.9（同 67.4）と7.5ポイント上昇し、5期振りに上向きとなっている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が11.4%、「減少」が54.3%であることから、DIは 42.9で、4～6月期実績と比較して9.2ポイント上向いている。

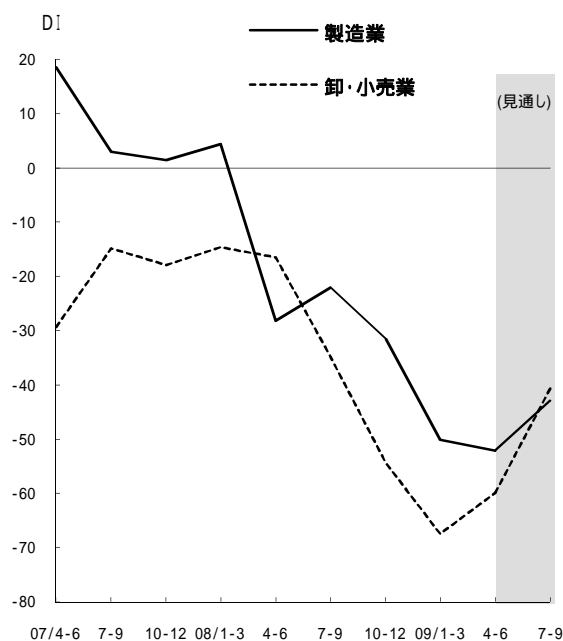
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が16.3%、「減少」が57.0%であることから、DIは 40.7となり、4～6月期実績と比較して19.2ポイント上向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	4～6月 (実績)	0.0	12.7	22.5	39.4	25.4	-52.1
	7～9月 (見通し)	0.0	11.4	34.3	40.0	14.3	-42.9
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	5.7	5.7	17.3	41.4	29.9	-59.9
	7～9月 (見通し)	3.5	12.8	26.7	46.5	10.5	-40.7

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 製造業、卸・小売業とも在庫上向く ～

[4～6月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は11.4%（前期7.7%）、「減少」が48.6%（同50.7%）であることから、DIは 37.2（同 43.0）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が10.3%（同19.0%）、「適正」が77.6%（同70.7%）、「不足」が12.1%（同10.3%）である。

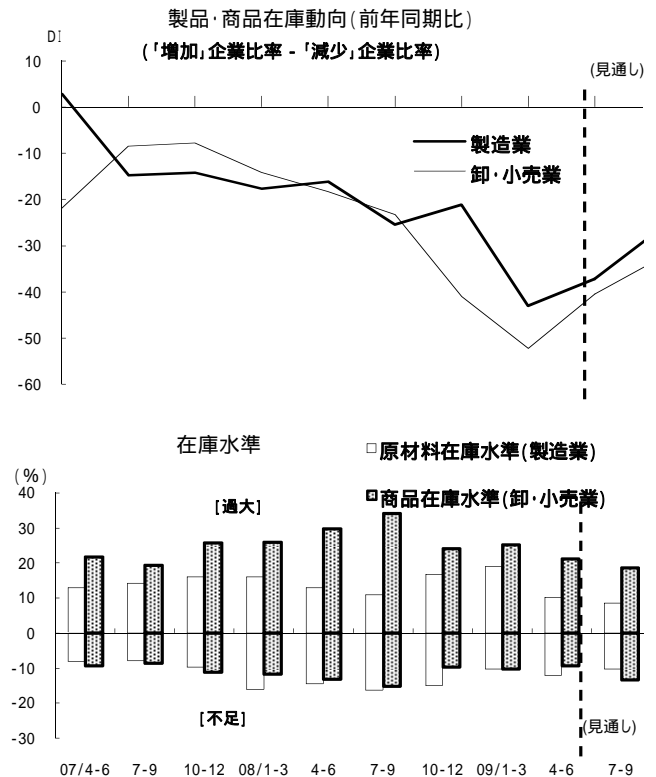
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が6.0%（前期2.3%）、「減少」46.4%（同54.5%）であることから、DIは 40.4（同 52.2）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が21.3%（同25.3%）、「適正」が69.4%（同64.5%）、「不足」が9.3%（同10.2%）である。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が13.0%、「減少」が39.1%で、DIは 26.1となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が8.5%、「適正」が81.3%、「不足」が10.2%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が6.0%、「減少」が38.5%であることから、DIは 32.5となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が18.6%、「適正」が68.1%、「不足」が13.3%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	4～6月 （実績）	1.4	10.0	40.0	35.7	12.9	-37.2
	7～9月 （見通し）	0.0	13.0	47.9	36.2	2.9	-26.1
（卸・小売業）	4～6月 （実績）	0.0	6.0	47.6	32.1	14.3	-40.4
	7～9月 （見通し）	0.0	6.0	55.5	34.9	3.6	-32.5



(4) 収 益

～ 3期振りに上向き、来期見通しも上向く ～

〔4～6月期の実績〕 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が13.4%（前期14.1%）、「減少」が65.0%（同69.4%）であり、D Iは 51.6（同 55.3）となり3.7ポイント上向いている。

業種別にD Iをみると、製造業 46.5（前期 56.1）、建設業 56.2（同 57.4）、卸・小売業 53.3（同 53.7）と、全業種で上向いており、特に、製造業の上昇幅が大きい。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が16.1%、「減少」とみる企業が56.6%であることから、D Iは 40.5で、4～6月期実績と比較して11.1ポイント上向く見通しとなっている。

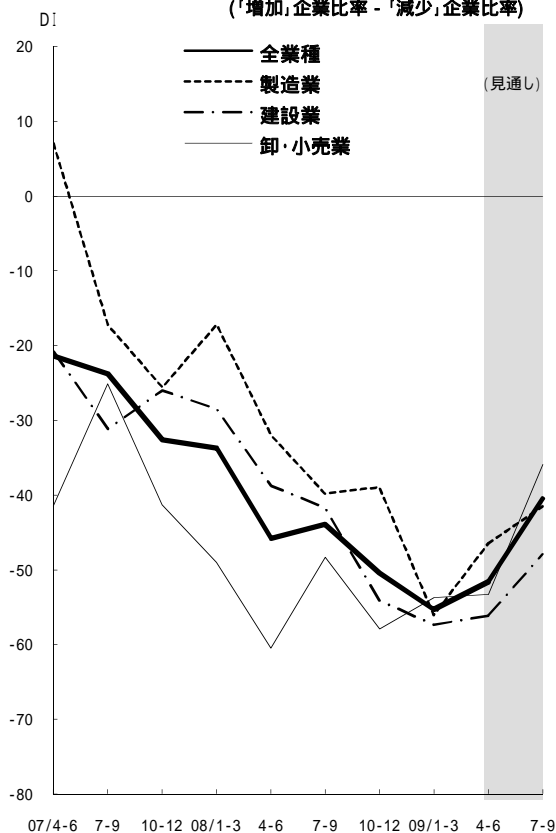
業種別にD Iをみると、製造業は 41.5、建設業 47.9、卸・小売業 35.9で、4～6月期実績と比較して、全業種で上向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		D I (%)					D I
期		増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	2.4	11.0	21.6	34.4	30.6	-51.6
	7～9月 (見通し)	3.9	12.2	27.3	37.1	19.5	-40.5
(製造業)	4～6月 (実績)	0.0	14.1	25.3	28.2	32.4	-46.5
	7～9月 (見通し)	1.4	11.4	32.9	34.3	20.0	-41.5
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	10.4	23.0	33.3	33.3	-56.2
	7～9月 (見通し)	0.0	13.0	26.1	32.6	28.3	-47.9
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	5.6	8.9	17.7	40.0	27.8	-53.3
	7～9月 (見通し)	7.9	12.4	23.5	41.6	14.6	-35.9

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売価格、仕入価格とも上向く ～

[4～6月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が9.7%（前期12.0%）、「低下」が39.7%（同45.9%）であることから、DIは30.0（同 33.9）と上向いている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が19.6%（前期28.1%）「低下」が21.5%（同30.5%）であることから、DIは 1.9（同 2.4）と僅かに上向いている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が9.4%、「低下」とみる企業が37.9%であることから、DIは 28.5で、4～6月期実績と比較して上向く見通しとなっている。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が22.8%、「低下」とみる企業が21.8%であることからDIは1.0となり、マイナスの水準であった4～6月期からプラスの水準へ上向く見通しとなっている。

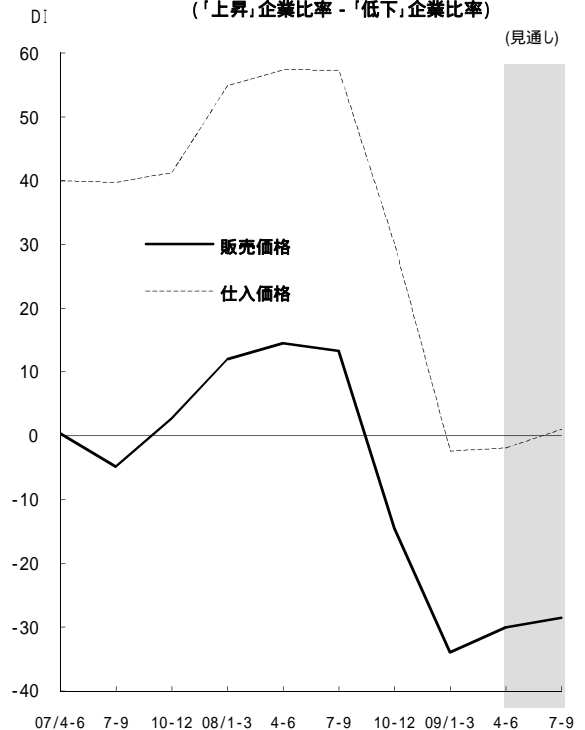
販売価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	0.5	9.2	50.6	32.9	6.8	-30.0
	7～9月 (見通し)	0.5	8.9	52.7	31.5	6.4	-28.5

仕入価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	2.0	17.6	58.9	19.5	2.0	-1.9
	7～9月 (見通し)	2.0	20.8	55.4	19.8	2.0	1.0

価格動向(前年同期比)
('上昇'企業比率 - '低下'企業比率)



3. 設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

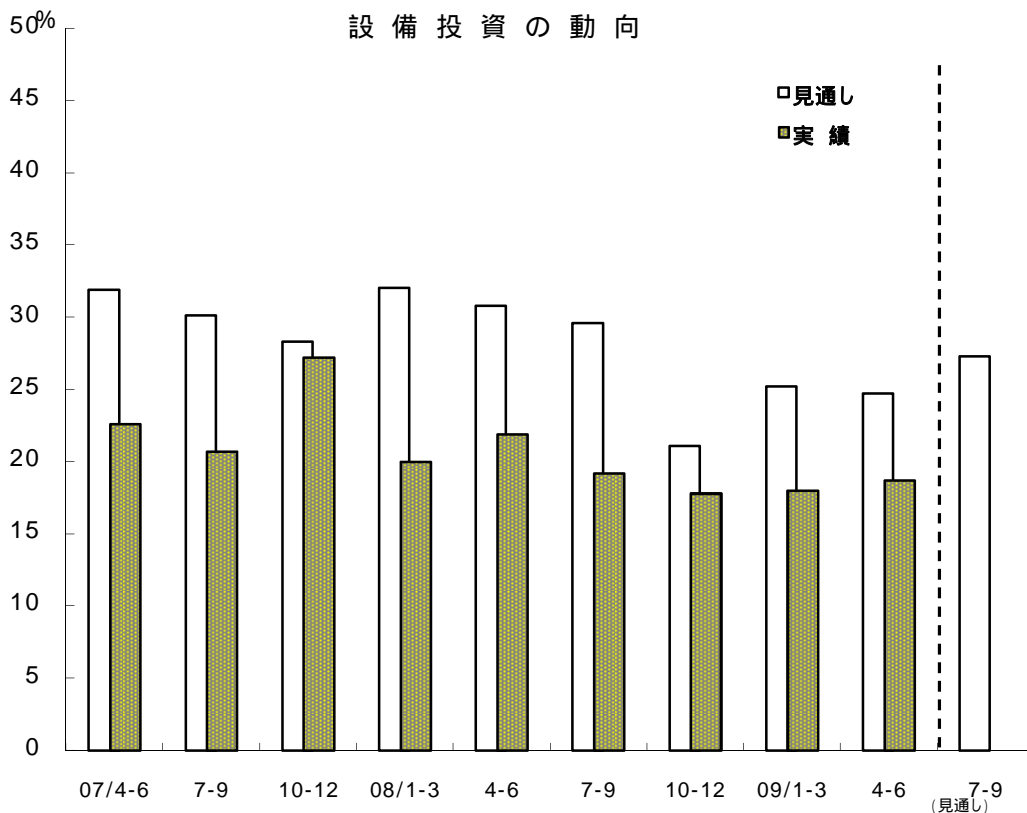
～ 実施状況は横ばい ～

[4～6月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は18.7%（前期18.0%）で、ほぼ横ばいとなっている。

これを業種別にみると、製造業28.1%（前期28.6%）と横ばいだが、建設業が10.4%（同6.5%）と上向いており、卸・小売業は15.5%（同16.5%）と僅かに下向いている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で13.9%（前期11.1%）、「計画はあるが具体化していない」は13.4%（同13.6%）、「計画はない」は72.7%（同75.3%）であった。「計画あり」は合計27.3%（同24.7%）と前期予想より上回る見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で29.2%（前期37.5%）、建設業で12.5%（同10.9%）、卸・小売業で33.7%（同22.5%）の見通しとなっている。



(2) 設備投資の目的

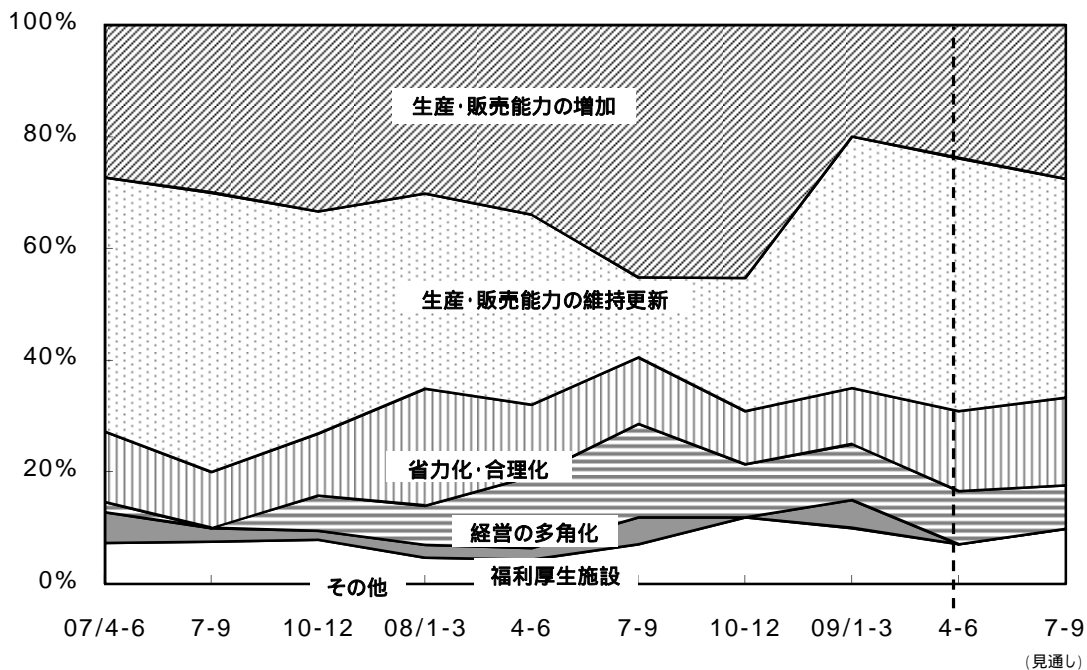
[4～6月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(18.7%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が45.2%(前期45.0%)でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が23.8%(同20.0%)で2位、「省力化・合理化」が14.3%(同10.0%)で3位となっている。

業種別にみると、全業種で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、製造業、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」が2位となっているが、建設業では「経営の多角化」「省力化・合理化」が同率で2位となっている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(27.3%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が39.2%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」27.5%、「省力化・合理化」15.7%、「その他」9.8%の順となっている。

業種別では、建設業、卸・小売業では「生産能力の維持更新」トップとなっているが、製造業では「生産・販売能力の増加」がトップとなっている。製造業、建設業では「省力化・合理化」が高い比率となっている。

設備投資の目的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 製造業、卸・小売業で上向く ～

[4～6月期の実績] 資金繰り状況（前期比）は、全業種では、「楽になった」とする企業が9.2%（前期5.9%）、「苦しくなった」が37.8%（同44.9%）であることから、D Iは 28.6（同 39.0）と上向いている。

業種別にD Iをみると、製造業が 37.5（前期 43.7）、建設業が 29.8（同 29.1）、卸・小売業が 20.6（同 40.9）で、卸・小売業が20.3ポイントと大きく上向いており、製造業が6.2ポイント上向いている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し（当期比）をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が6.8%、「苦しくなる」が39.8%で、D Iは 33.0となり、4～6月期実績（ 28.6）と比較して、下向く見通しとなっている。

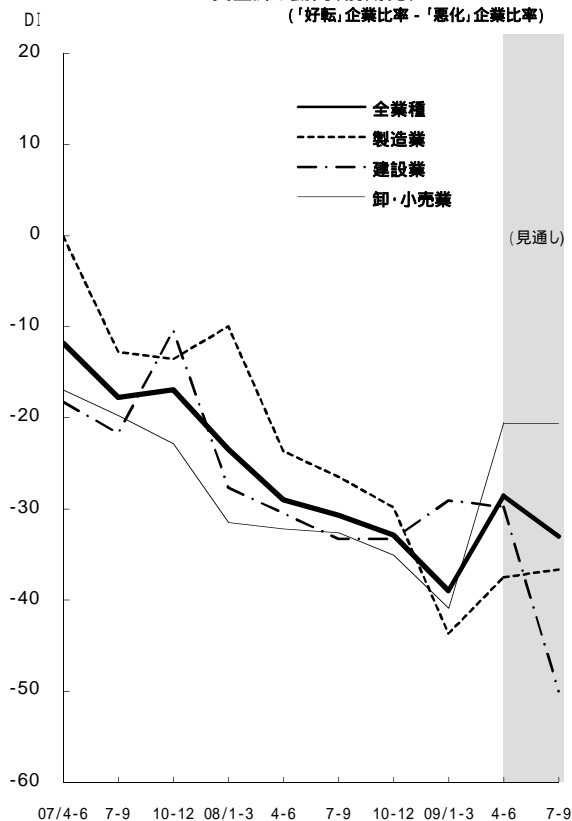
業種別にD Iをみると、製造業 36.7、建設業 50.0、卸・小売業 20.6となっており、4～6月期実績と比較して、建設業だけ下向く予想となっている。

資金繰り(前期比)

		D I (%)						
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	D I	
全業種	4～6月 (実績)	0.5	8.7	53.0	25.2	12.6	-28.6	
	7～9月 (見通し)	0.5	6.3	53.4	26.7	13.1	-33.0	
(製造業)	4～6月 (実績)	1.4	5.6	48.5	27.8	16.7	-37.5	
	7～9月 (見通し)	1.4	1.4	57.7	26.8	12.7	-36.7	
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	12.8	44.6	27.7	14.9	-29.8	
	7～9月 (見通し)	0.0	4.2	41.6	39.6	14.6	-50.0	
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	0.0	9.2	61.0	21.8	8.0	-20.6	
	7～9月 (見通し)	0.0	11.5	56.4	19.5	12.6	-20.6	

資金繰り動向(前期比)

(「好転」企業比率 - 「悪化」企業比率)



(2) 現金・預金

[4~6月期の実績] 現金・預金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が14.5%(前期8.3%)、「減少した」が41.5%(同46.6%)であることから、DIは27.0(同38.3)と上向いている。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が10.4%、「減少する」が41.4%であることから、DIは31.0(当期27.0)と下向く予想となっている。

(3) 金融機関借入

[4~6月期の実績] 金融機関借入金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が19.6%(前期29.5%)、「減少した」が30.7%(同26.5%)であることから、DIは11.1(同3.0)と下向きマイナスの水準となっている。

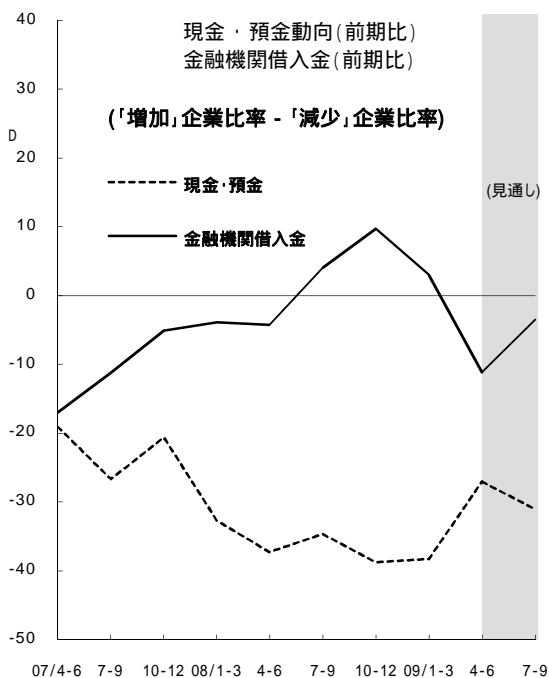
[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が21.4%、「減少する」が24.9%であることから、DIは3.5(当期11.1)と上向く予想となっている。

現金・預金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4~6月 (実績)	1.0	13.5	44.0	28.5	13.0	-27.0
	7~9月 (見通し)	1.5	8.9	48.2	29.1	12.3	-31.0

金融機関借入金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4~6月 (実績)	5.9	13.7	49.7	26.3	4.4	-11.1
	7~9月 (見通し)	6.5	14.9	53.7	21.9	3.0	-3.5



(4) 販売代金回収期間

[4~6月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が2.0%(前期2.5%)、「長くなった」が13.1%(同18.4%)であることから、DIは 11.1(同 15.9)となった。また、84.9%(同79.1%)の企業は「変わらない」としている。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が1.5%、「長くなる」が16.2%であることから、DIは 14.7(当期 11.1)となる。また、82.3%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

[4~6月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が3.9%(前期3.0%)、「短くなった」が5.4%(同5.0%)であることから、DIは 1.5(同 2.0)となった。また、90.7%(同92.0%)の企業は「変わらない」としている。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が2.0%、「短くなる」が4.5%であることから、DIは 2.5(当期 1.5)となる。また、93.5%の企業は「変わらない」とみている。

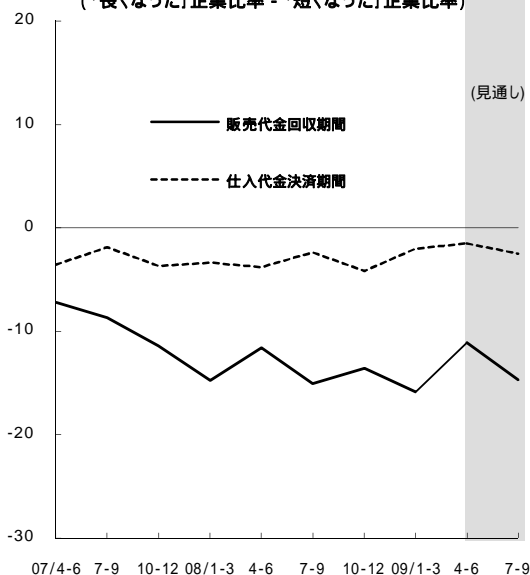
販売代金回収期間(前期比)

		(%)					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	4~6月 (実績)	0.5	1.5	84.9	10.7	2.4	-11.1
	7~9月 (見通し)	0.5	1.0	82.3	12.3	3.9	-14.7

仕入代金決済期間(前期比)

		(%)					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	4~6月 (実績)	0.0	3.9	90.7	3.9	1.5	-1.5
	7~9月 (見通し)	0.0	2.0	93.5	2.5	2.0	-2.5

販売代金回収期間動向(前期比)
('短くなった'企業比率 - '長くなった'企業比率)
仕入代金決済期間動向(前期比)
('長くなった'企業比率 - '短くなった'企業比率)



5. 経営上の問題点について

～ 「販売価格安」比率伸ばす ～

4～6月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」40.2%（前期37.4%）、「収益不振」19.3%（同16.2%）、「過当競争」13.1%（同14.9%）、「販売価格安」11.1%（同10.6%）、「原材料・仕入価格高」4.1%（同4.9%）の順となり、前期と各々順位は変わっていない。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「受注不振」42.3%（同35.0%）が4期連続でトップとなり、「収益不振」17.7%、「販売価格安」12.3%の順になっている。

建設業では「受注不振」40.0%（同42.0%）がトップとなり、「収益不振」24.4%、「過当競争」20.0%の順となっている。卸・小売業では「売上不振」40.6%（同37.4%）、「収益不振」17.4%、「過当競争」16.1%の順となっている。

いずれの業種とも「売上・受注不振」「収益不振」「過当競争」が上位を占めているが、「原材料・仕入価格高」が比率を下げ、「販売価格安」の比率が高くなっている。

